



寄幼稚園だより

令和3年4月12日
松田町立寄幼稚園
卯月（うづき）
文責 園長

野山のウグイスのさえずりが聞こえてきます。そのような季節の中、新入园児4名、進級児4名、合わせて8名の園児と新たに渋谷警備員を入れた教職員6名とで、令和3年度がスタートしました。お子様のご入园、ご進級おめでとうございます。

本園は今年で創立38年目を迎えました。子ども達の安全を第一に考えるとともに一人一人の願いや思いを受け止め、園目標実現に向けて職員一同努力して参ります。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



元気いっぱい 夢中になって遊ぶ子

育てたい子どもの姿

- 元気にのびのびと遊ぶ子
- 思いやりがあり
- 最後までがんばりとおす子
- 助け合う子
- 自分で考え行動できる子
- 自分の思いを表現できる子



新たに4人のお友達を迎え全園児8人で新年度がスタートしました。一人一人が好きな事に夢中になって取り組み笑顔いっぱいの幼稚園を目指します。

- ・個人差や年齢差を考慮しながら一人一人の得意なことを活かす。
- ・やりたいことにじっくりと取り組む場や時間を保証する。
- ・3歳から5歳の幼児が共に生活する中で刺激し合ったり助け合ったりするなど互いに学び合える場の工夫。
- ・地域の自然に目を向け興味関心を高められる活動の充実。
- ・松田幼稚園との交流を通して同年齢児の関わりを深める。



等に重点をおき、職員一丸となって保育の充実に努めていきたいと考えています。一年間よろしくお願いいたします。

ひまわり組 担任

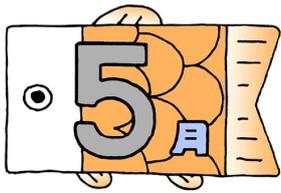
すずらん組・こすもす組 担任

幼稚園評議員

幼稚園の運営、経営の面で意見を伺い、よりよい幼稚園にしていくため、昨年に引き続き次のお二人をお願いいたしました。

- 山岸 さん
- 飯山 さん





寄幼稚園だより

令和3年5月1日
松田町立寄幼稚園
五月（さつき）
文責 園長

おおきくなるっていうことは

（始業式の話より）

始業式では、表題の話の読み聞かせをしました。

おおきくなるっていうことは
ようふくが ちいさくなるっていうこと

おおきくなるっていうことは
あたらしいはが はえてくるってこと

おおきくなるっていうことは
みずにかおをながくつけられるってこと

おおきくなるっていうことは
あんまり かないってこと

おおきくなるっていうことは
まえより たかいところにのぼれるってこと

おおきくなるっていうことは
たかいところからとびおられるってこと

それもそうだけど
とびおっても だいじょうかどうか
かんがえられるってことも おおきくなるってこと

．．中略．．

おおきくなるっていうことは
おもしろいことがどんどんみつけられるってこと

．．後略．．（中川ひろたか作 童心社より引用）

四月、五月は新しい出会いがたくさんあり、体も心もぐっと成長するときです。私たち大人は、子どもができるようになったことを一つ一つ見つけて、「おおきくなったね」と伝え、認めたいですね。



同じ場で過ごす良さを活かして

入園・進級間もない子ども達ですが、友達と一緒にいるいは自分の好きな遊びを見つけ、時間が足りないくらいに夢中になって遊ぶ様子が見られます。また新入園児は、帰りの会での「アンパンマン」の紙芝居を楽しみにしています。

寄幼稚園では、少ない人数を活かして“みんなが同じ場で過ごす異年齢保育”を行っています。その中では、子ども達が共に学び合い、社会性や協調性、思いやりの気持ちなどが育まれます。しかし、年齢に応じた活動も大切です。発達段階を考え経験を積むことができるように、一人一人の実態に即した支援の方法を探っていきます。



帰りの会「アンパンマン」の紙芝居に夢中です。
この会は、今日の活動の振り返りや明日に向けて考えいく大切な時間です。



ボールを下から投げたり上から落としたりしてゴールにどうしたら入るのか試行錯誤しながら繰り返し楽しんでいます。



「一緒に行こうよ」手をつないで園庭に連れて行ってもらいました。



寄幼稚園だより

令和3年6月1日
松田町立寄幼稚園
水無月(みなづき)
文責 園長

社会と繋がること

くとなりの畑で遊びたい



これは松田幼稚園でのことです。五月半ば、幼稚園北側の畑(野原)で花を摘んだり、蝶を捕まえたりと遊びに興じている子どもたち。やがて、となりの畑の花や蝶に気が付きました。「隣の畑に行きたい。蝶を捕まえたい。」と数人の子がつぶやき始めました。でも、その畑の持ち主がわかりません。たくさんの人に聞いて「橋本さんの畑だ」とわかりました。家の場所を知っている園長と

はしもとさんへ

はしもとさんのはたけでむしとりをしていいですか
にじぐみ まつだようちえん
みさき



みさきさん、
こうたさん、
かいさんの
四人でお願い
に行きました。

インターフォンを押す子どもの真剣な顔。玄関に入り、子どもたちの手紙を見てもらいました。橋本さんは、「これを子どもが?」
三人の子どもを見つめて、「いいですよ。いつでも遊んでいいですよ。」



願いを叶えるために畑の持ち主を探す。手紙を書く。お願いに行く。叶えるための方法を考え見つけ、思いを伝えようとしたのです。まさに、未知なる状況にも対応できる考える力、判断する力、表現する力と言えましょう。川向こうへ渡るために自前の橋を架け、進む道を作りながら、橋本さんという社会と繋がったのです。もし園長が先回りして一人で進めたら、子どもたちの学びは生まれませんでした。

『園外保育に行きました』

“水曜日は探検デー”と称し園外の自然と関わる中で、様々な事象に興味関心をもち体験を広げてほしいと考えています。初回は小学校裏山に行き、カラムシの葉やカラスノエンドウを使って遊べることを知ったり、木苺を採り味わったりしました。その日の帰りの会では「楽しかった」「カラスノエンドウで鳴らせることができて嬉しかった」「木苺また食べたい」「また図鑑もってお散歩行きたい」等、感想を伝えると共に次への期待に胸を膨らませていました。今後も四季折々の自然の中で直接触れる体験を通して、不思議さ、美しさ、面白

を感じてほしいです。



タンポポのわたげ見つけたよ。どうぞ!

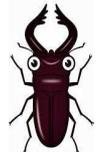


寄幼稚園だより

令和3年7月1日
松田町立寄幼稚園
文月（ふみづき）
文責 園長

虫のゆりかご

山滴る季節となりました。



仲間の甲虫類



山に一步入ると不思議なものを見つけました。一枚の葉がくるくると巻かれ落ちていました。拾ってゆっくりと広げてみると、小さな小さな黄色の粒が一つ、どうやら何かの卵のようです。調べてみると「おとしづみ」（大きさ五ミリ前後）が卵を葉に包み、枝から切り落としたものでした。



『上を見ると、同じ葉っぱをつけた木があった。どこかに虫はいないかな。いた、いた。1まいの葉っぱの上に、ちよこつと乗った黒っぽい小さな虫。何かをさがすように、あちこち歩き回っている。葉っぱを丸めたのは、この虫かもしれない。そつと様子を見てみよう。歩き回っていた虫が、葉っぱの根元の近くで止まった。あつ、虫が葉っぱを横に切りだした。するどくがつたあごを使って、切っている。真ん中の太いすじだけをのこして、葉っぱは、あつという間に切れた。しばらくすると、虫は、また、葉っぱの上をあちこち歩き始めた。よく見ると、



あごで葉っぱをかんでいる。葉っぱをやわらかくしているようだ。：後略・まかれていた葉っぱは、子どもを育てるゆりかごだったんだ。』

（平成九年度用 光村図書出版 国語三下 あおぞらより引用）
おとしづみも幼稚園の先生（保育者）もじっくり子らの成長を見守り支援しています。いのちあるものの思いは同じなのです。本から新たなことを学びました。

『水曜日は探検デー』

6月は川原や幼稚園周辺の散策に行ってきました。川原では、おたまじゃくし捕りが始まりました。網・ザル・カップなどそれぞれが考えたものを使っていました。石で囲っておたまじゃくしを追い込んだり、手で捕獲したりする姿もあり、自分でとれた喜びを感じていました。また、川の流れを利用して木を船や魚に見立てて流したり受け取ったりする遊びもしました。大きな木を探す子、形の良い木を探す子と思いはそれぞれでしたが、実際に流してみても速度や流れ方の違いなどに気付くことができました。

散策では、去年の体験から「こっちにたくさんいたよね」とカタツムリがいた場所を案内する年中児の姿があり、みんなで夢中になってとりました。また、前回の体験でカラムシの葉が付くことを知ったことから、いろいろな葉を見つけ服や帽子に「つく」「つかない」等試す様子もありました。

子ども達は体験したことを思い出し活動に活かしていきます。これからもいろいろな体験を積み重ねられるよう取り組んでいきたいと考えます。



こんな木を見つけたよ。どんな感じに流れるかな？



木の船を流して、夢中で追いかけてます。



カタツムリ、ほらいたよ！とれてよかったね。

